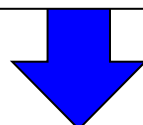


学校教育目標	
【学校の教育目標】	英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに
【校訓】	自律 共生 創造

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・一人一台のタブレットを活用した授業を実践する。 ・主体的・対話的で深い学びにつながる授業を実践する。

指導の重点(各教科)
<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領で示された目標及び学校の教育目標を達成するために、カリキュラム・マネジメントの視点を生かした授業改善に努め、授業の質を向上させる。 ○情報収集・プレゼンテーション資料作成・発表・話し合い等の活動を充実させて、コミュニケーション能力を高め、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ○「中野区学力にかかわる調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果等から明らかになった課題を踏まえて授業改善プランを作成し、「基礎的・基本的な内容」の確実な定着や学びの連続性を意識した授業改善、指導と評価の一体化の工夫を一層推進する。 ○知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等が育成できるよう、観察や実験、レポートの作成、論述等、自ら考え、表現する活動を重視する。

指導の重点(総合的な学習の時間)
<ul style="list-style-type: none"> ○教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるように、総合的・横断的な学習や探究的な学習、課題解決的な学習を取り入れ、自ら問題を発見し、主体的に判断し、よりよく課題を解決する能力を育成する。 ○職場訪問や職場体験、社会貢献活動調査等の取組において、地域の人材や関係諸機関との連携・協力を推進し、主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育み、自己の生き方を考える力を高める。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
<p>少人数指導・習熟度別指導による生徒の個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な内容の習得を目指すとともに、任期付短時間勤務教員を効果的に活用したチームティーチングによる指導を行う。放課後補充教室の充実を図る。</p>	<p>情報収集・プレゼンテーション資料作成・発表・話し合い等の活動を充実させて、コミュニケーション能力を高め、主体的・対話的で深い学びを実現する。</p>	<p>「中野区学力にかかわる調査」の結果等から明らかになった課題を踏まえて授業改善プランを作成し、「基礎的・基本的な内容」の確実な定着を図り、発展的な学習を取り入れる。さらに学びの連続性を意識した授業改善を行い、指導と評価の一体化を一層推進する。</p>
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
<p>一人1台端末を活用した学習を進め、探究的な学習や小集団活動を通した「協働的な学び」と、一人ひとりの学習状況に応じた「個別最適な学び」の充実を図り、生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指す。自習室を開放し自主的な学習を推進する。</p>	<p>共生社会の形成に向けて、ユニバーサルデザインや合理的配慮を意識して、掲示物や配布物の工夫や、学級の雰囲気作り、授業展開の工夫などを推進する。教室・廊下の作品展示方法を工夫する。</p>	<p>週4日実施する放課後学習教室、夏の補充学習教室などで家庭との連携を深め、自主的な学習習慣及び学習内容の確実な定着を目指す。放課後に地域のボランティアを活用した補充教室を実施する。</p>

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

国語科における指導の重点

- 知識・技能を活かした国語力の育成を目指し、漢字や語彙、表現技法など基礎的な内容を定着させる。
- 文章を正確に読み、根拠を明確にしなが、説明文や批評文を書く活動を通して自分の考えを述べる力を育成する。
- 読書活動に親しみ、学校図書館と連携した授業を実施する。

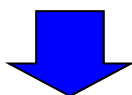
現状分析

区学力調査の結果分析

- 1年生:全体の達成率は72%と7割を超えている。領域別に見ると、「読むこと」では76.1%となっているなど、習熟が図られていることが分かる。また、領域別に見ると特に「思考・判断・表現」が72.4%であり、3つの領域の中で最も高い値となっている。
- 2年生:全体の達成率は68%と7割に達することはできていないが、目標値を超えている。領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」では71.6%となっているなど、習熟が図られていることが分かる。また、領域別に見ると特に「知識・技能」が69.9%であり、3つの領域の中で最も高い値となっている。
- 3年生:全体の達成率は66.6%と7割に達することはできていないが、目標値を超えている。領域別に見ると、「読むこと」では73.7%となっているなど、習熟が図られていることが分かる。また、領域別に見ると特に「思考・判断・表現」が67.2%であり、3つの領域の中で最も高い値となっている。

教科指導上の課題

- 1年生:「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えを確かに行えるような指導が必要である。文学的な文章においては、事象や行為を登場人物の心情と結び付けたり、説明的な文章では、語彙力を確かにし、正確に文章の内容を把握したりできるようにする。また、「書くこと」において、根拠を明確にしなが自分の考えが伝わる文章を書けるような指導をする必要がある。学習内容が今後一層複雑化していくため、描写を基に読むことを重点的に指導する必要がある。
- 2年生:情報を比較し、必要な内容を捉え、適切な論を考えることができるような指導が必要である。文章を聞き、話し、書くこと全てに共通して言えることであるが、自分の考えやその話の根拠が明確になるように、文章の構成を工夫できるようにする。そのため、文章の読解力と自分の考えを適切に表現できる能力の向上に向けた指導をする必要がある。「知識・技能」については、特に文法について理解できるような指導をする。一年生の内容である文節や単語、自立語付属語など言葉の基礎を身に付けさせたいので、二年生で新たに学んだ用言の活用、助詞・助動詞についても一度学習した内容を何度も授業内や小テスト等で随時取り上げ基礎を定着させられる指導を実践する必要がある。
- 3年生:「言語文化」については、動詞の活用の種類並びに活用形について理解させ、的確な言葉の使い方の理解の必要性を伝え、一度学習した内容を随時取り上げたいので、これまでの知識と関連させた指導をする必要がある。「書く」については、数値を使い、具体的な事柄を述べるができるような指導を行う。また、文章全体と部分との関係に注意しながら内容を捉えられる力をつける。そのため、読み取りが読解につながるような情報処理を向上させ、それを基に自分の考えを表現する指導をする必要がある。



授業改善プラン

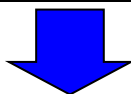
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○知識的な内容は授業内で一定の定着を図る。 ○古典分野については、文語のきまりや訓読の仕方を徹底する。学習内容の定着度を小テストで確認することに加え、生徒ごとの課題解決ができるよう、個別に指導する。 ○「個→小グループ→全体→個」という授業展開を意識して授業を行う。例えば、「読むこと」において個人で読み、考えたことをグループでの協働的な学習を通して広げさせ、最後に個人で考えをまとめ、深化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆特に知識・技能分野における基礎的な内容に関しては、一人一台端末を活用し、生徒ごとに必要な学習内容に繰り返し取り組ませることで学習内容の定着を図る。 ◆文章を正確に読むために必要なスキルを学習する機会を設ける。教科書における「情報のレッスン」や「書くこと」に関する単元では、特に読み方や書き方をパターン化し、根拠を明らかにしながら読み、自分の考えをもつことができるよう指導する。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○文法や知識的な問題に関しては、基礎的な部分はどの生徒も定着できるように授業内で問題集の問題を解く時間を確保し、全ての生徒の躓きを授業内で解決することに努める。 ○読解においては、グループでの話し合いで個々が読解したことや思考の道筋を共有していく視点をもてるようにする。 ○発表やディベートの内容においては、自分の話し方や文章の構成を客観的に見る必要があることから、グループワークを中心とし、グループ内で学びが深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆文法では、きめ細かい机間指導を行うと共に、個々の進捗状況に合わせて課題や定着状況を一人一台の端末を使って提示・確認を行わせる。また、小テストや定期考査のテスト直しを実施し、授業内で理解した内容が確実に定着するように指導する。 ◆共有する前段として、個々がそれぞれ自分の考えを持ったうえで、グループに提示、共有し、新たな意見を作成できるように、Classroom やジャムボードを使用し、推敲・再考しやすいように主体的に取り組む態度を養う。 ◆発表やディベートの内容においては、視覚的に理解できるように、タブレット端末等を利用し、お互いに動画を撮り合い「協働的な学び」及び「個別最適な学び」の視点ももてるようにする。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○作文指導では、協働的な学びを生かし、読み手に自分の意見を的確に伝えることができている作文の構成を共有する視点をもてるようにする。 ○文法や古典の言語文化において、協働的な学びを生かし、グループワーク中で習得した知識を発展させる視点をもてるようにする。 ○論説の読解では、個々が読解したことを情報処理し、活用していくには協働的な学びの中で、思考の道筋を共有していく視点をもてるようにする。 ○協働的な学びを活用するにあたり、Classroomでの個々の課題提出を共有したり、グループワークの際「コラボノート」を活用し、個別最適な学びの視点ももてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆作文指導において、生徒個々の文及び文章の構成に対応し、読み手に自分の意見を的確に伝えるための手立ての視点を提示する。 ◆知識を習得したかどうか個々が確認するために一人一台の端末を使って自分のレベルに合わせた問題演習を多く行わせる。 ◆情報整理のレッスンを個々に強化し、「具体と抽象」や「根拠の吟味」には「思考の視覚化」が必要であるという視点を提示する。 ◆共有する前段として個々が自分の考えをもち、それをグループ内の話し合いに提示し、共感・修正からさらに再考していく流れによって主体的に学ぶ態度を養う。

(2) 社会科

【中学校】

社会科における指導の重点
○知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等が育成できるよう、単元のまとめプリントやレポートの作成、論述等、自ら考え、表現する活動を重視する。 ○資料分析・情報収集・発表・話し合い等の活動を充実させて、コミュニケーション能力を高め、主体的・対話的で深い学びを実現する。

現状分析
教科指導上の課題
1年生: 思考力や表現力を高めるための基礎となる社会的な知識・技能を習得するための指導をする必要がある。 2年生: 単元のまとめ学習において自分の考えを文章にまとめて表現力を高める指導をする必要がある。 3年生: 思考の過程と結果を記述したり共有したりする時間を設けることで表現力を高める指導をする必要がある。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○精選したグラフや図、写真等の資料を取り入れ、資料の読み取り活動を必ず設定する。個人作業後には、ペアや小グループでの意見交換や発表の時間を多く取り入れ、生徒が視野を広げながら知識や技能の向上を図れるような工夫を行う。 ○授業の最後にまとめの時間を必ず設定をする。個人の能力に合わせた本時のまとめに取り組みせ、個別指導の徹底をする。	◆単元ごとにワークの課題を出し授業で学習した内容を復習させる。授業においては kafoot を用いてクイズ形式で既習事項を復習させることで学習への意欲を高められるようにする。 ◆一人1台端末(タブレット)のキュビナ(AI分析学習ソフト)を活用して、個人の学習到達度に合わせた問題に取り組みさせて、個別最適な学びによる学力の定着を図る。
2年生	○「個別最適な学び」においては、授業の最後にまとめの時間必ず設定をする。個人の能力に合わせた本時のまとめに取り組みせ、個別指導の徹底をする。「協働的な学び」においては、授業内でデジタル教材を活用して、小グループでの意見交換や発表を多く取り入れて、一方的な授業とならないような仕掛けを取り入れる。	◆授業進度に合った内容のワークや白地図等を活用した宿題を出し、基礎的な学習の定着を図るような取り組みをする。 ◆一人1台端末(タブレット)のキュビナ(AI分析学習ソフト)を活用して、個人の学習到達度に合わせた問題に取り組みさせて、個別最適な学びによる学力の定着を図る。
3年生	○生徒が資料の読み取りや思考し記述する時間を必ず設定する。机間指導の中で生徒の実態を把握し、進捗状況や理解度に合わせて個別に指導を行う。 ○単元の最後にはまとめの時間を設定し、その過程の中で思考ツールや小グループでの意見交換も取り入れることで、生徒が思考を整理しながら表現力を高められるようにする。	◆単元毎に小テストを行ったり簡単な家庭学習の課題等に取り組みせたりし、基礎的な学習の定着を目指す。 ◆授業の最初や最後にパワーポイントを用いて授業内容の復習を行う機会をつくる。 ◆一人1台端末(タブレット)のキュビナ(AI分析学習ソフト)を活用して、個人の学習到達度に合わせた問題に取り組みさせて、個別最適な学びによる学力の定着を図る。

(3) 数学科

【中学校】

数学科における指導の重点

- 計算力を高め、できる喜びを感じさせ数学的な楽しさを感じさせていく。
- 既習したことを生徒同士で考えたことの共有ができるようにし、主体的に学ぶ力を身につける。
- 授業でスパイラル学習を入れ、反復して授業を行い、技能の向上と活用に必要な知識の習得を目指す。

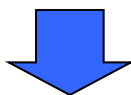
現状分析

区学力調査の結果分析

- 3学年中達成率7割を上回ったのは1学年である。領域別に見ると、「関数」の達成率が他の領域に比べて低く、課題があることが分かる。
- 1年生:どの領域においても、目標値より高かった。計算の領域では、小数の積の計算では、目標値より8.3ポイント低かった。図形の領域では、正方形の対称の軸の本数の問題で、目標値より7.1ポイント低かった。
- 2年生:数と式の領域では、6.6ポイント高く、関数では4.5ポイント高く、図形では、9.4ポイント高く、データの活用では、10.4ポイント高かった。分数と分数の除法では、目標より6.1ポイント低かった。比例の式から比例のグラフをかくでは、0.5ポイント低い。面と辺の位置関係では、4.4ポイント高く、ヒストグラムの階級の幅を読み取るでは、2.5ポイント高かった。
- 3年生:全体的に目標値より低い結果となった。数と式の領域では目標値より1.0ポイント低く、関数の領域では1.5ポイント低く、データの活用の領域では3.5ポイント低かった。

教科指導上の課題

- 1年生:「数と計算」では、小数の計算でつまずきやすく、小数点の位置の違いなどが考えられる。小数点の位置については、乗法のきまりをよく理解させ、移動することが分かるように指導することが大切である。計算技能については、個々の生徒のつまずきの原因を探り、個に応じた指導を行う必要がある。
- 2年生:「数と式」では、分数と分数の除法では、目標より6.1ポイント低いことから、計算練習を繰り返しさせる指導を徹底する必要がある。「関数」では、グラフをかく練習やグラフをよむ練習をたくさん取り入れ指導する。
- 3年生:「数と式」では文字式の計算で生徒の計算ミスを減らすため、計算のきまりを確認しながら復習をしていく必要がある。「関数」では定着を図るため、表・式・グラフの繋がりの確認から行う必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の最後にまとめの時間を1コマ設定する。1枚の紙に章のまとめを行うことで、個人にあったレベルで主体的に何を書くのか判断することができるように、指導を行う。 ○電子黒板にデジタル教科書を映すことによって、図形の移動や回転体など、実際に動かして見せることができ、近くの席の友人との会話により、直感的な理解だけでなく、深い学びにつなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書の例題を丁寧に説明し、その直後に演習問題に取り組みさせることで、少しでも苦手意識が少なくなるように取り組んでいる。 ◆机間指導を細かく行うことで、全体の答え合わせの際に自信をもって答えることができるようにしている。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○区学力調査の結果より、数と式の領域では、6.6ポイント高く、関数では4.5ポイント高く、図形では、9.4ポイント高く、データの活用では、10.4ポイント高かった。分数と分数の除法では、目標より6.1ポイント低い。計算練習を繰り返させる指導をする。 ○比例の式から比例のグラフをかくでは、0.5ポイント低い。グラフをかく練習をたくさん取り入れ指導する。 ○面と辺の位置関係では、4.4ポイント高く、ヒストグラムの階級の幅を読み取るでは、2.5ポイント高かった。家庭学習の重要性をしっかりと理解させる。 ○習熟度クラスのなかでも、基礎クラス生徒の学力差が大きく、個別の支援が必要となる場面が多い。文章題などは、できるだけ理解できるように簡単な言葉で説明したり、デジタル教材を活用して場面が想像しやすくなり、問題解決できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎コースでは、指導員や学生ボランティアにも協力してもらい、きめ細かい机間指導を行う。できるだけ授業内でサポートするようにするが、夏休みの補充教室や定期考査前の補習質問教室も活用する。 ◆単元別テストや定期考査のテスト直しを実施し、家庭学習で何度も反復練習し、授業内で理解した内容が定着するように指導する。 ◆問題文から読み取った条件を正確に式やグラフで表せるように内容との関連性を再度意識させる。また、デジタル教科書や一人1台のiPadを活用し視覚的に理解できるような工夫をする。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○2クラス3展開の習熟度別少人数授業を活用していく。基本コースにおいては、生徒数を少なくして、教師が生徒にきめ細かい指導ができるようにしていく。また、学習支援員や学生ボランティアの活用をして、充実した支援ができるようにしていく。 ○章末などに既習したことを活用して、課題に取り組む機会をつくる。ヒントカードや電子黒板で解決の手順などを示すこと、教え合い学習を通し 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基本コースにおいては、授業の導入の工夫、反復学習、ペア学習やグループ学習を充実して、確かな学力の定着を図る。また、デジタル教科書や一人1台端末(iPad)を活用して、基本計算の反復学習や、数学的活動の充実を図る。 ◆生徒が授業で分からなかった内容をそのままにしないように、授業内に解決できるようにサポートしていく。授業の他には、放課後の補充教室や個別の質問教室を設定して定着を図る。

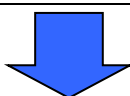
	<p>て、率先して考えようとする場を設ける。</p>	<p>◆生徒の家庭学習を充実させるために、授業内の小テストや単元テストを実施する。</p>
--	----------------------------	-----------------------------------------------

(4) 理科

【中学校】

理科における指導の重点
身近な事物・現象に進んで関わり、その中から探究課題を見出す力を身に付ける。 探究課題に対する解決方法を見出し、その結果を分析したり、解釈したりする力を身に付ける。 探究過程を振り返り、さらなる課題解決方法を見出す探求力を身に付ける。

現状分析
教科指導上の課題
○タブレット PC を活用して、学習事項を視覚化し、理解しやすいような工夫が必要である。 ○実験観察活動を充実させるために、ICT を活用して記録するなど、振り返り学習を重視し、学習事項の定着を図る工夫が必要である。 ○学習した知識を使って、考察する活動を確保し、表現する力を向上を図る工夫が必要である。



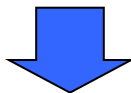
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○一人1台の iPad を活用して、生徒の興味や関心に合った個別の課題に取り組ませたり、課題を発表したりする活動を通して、他者の考え方と自分の考えを比較する活動を取り入れる。 ○授業時間内に論理的な文章を書く課題を提示し、根拠をもとにした論理的な考えを、自分なりの表現で文章に書く力の向上を図る。	◆学習内容と身のまわりの事物・現象とを結びつけやすいような導入やまとめの工夫を図る。 ◆実験や観察を通して、仮説、検証、考察のサイクルを身に付けさせ、探究的な学習の方法を習得できるような授業の工夫を図り、探究心を向上させる。
2年生	○一人1台の iPad を活用して、生徒の興味や関心に合った個別の課題に取り組ませたり、ジグソー法等の問題解決型学習を取り入れたりするなど工夫する。 ○授業時間内に論理的な文章を書く課題を提示し、根拠をもとにした論理的な考えをグループ内で共有させ、自分なりの表現で文章に書く力の向上を図る。	◆知識習得の際、身のまわりのどの場面と関連しているのか、活用されているのかを授業展開に組み込む。 ◆発展学習として、課題解決学習を取り入れ、分析能力を養う。仮説、検証、考察のサイクルを体験することによって、探究心を向上させる。
3年生	○一人1台の iPad を活用して、生徒の興味や関心に合った個別の課題に取り組ませたり、ジグソー法等の問題解決型学習を取り入れたりするなど工夫する。 ○授業時間内に論理的な文章を書く課題を提示し、根拠をもとにした論理的な考えを、相手に伝わりやすい表現で文章に書く力の向上を図る。	◆学習内容と身のまわりの事物・現象とがどのように結びついているのかを考えさせる授業展開の工夫を図る。 ◆小単元の終わりに小テストを実施し、自分の理解度を客観的に把握するとともに、苦手な分野を克服するための手立てを考えさせるような授業展開の工夫を図る。

(5) 音楽科

【中学校】

音楽科における指導の重点
○楽曲に相応しい演奏技能の習得…歌唱に対する意識を高め、美しい歌唱・合唱ができるようにする。学年に応じた楽曲に取り組み、無理なく、良い発声を意識した歌唱活動を充実させる。
○様々な表現法の習得…楽曲をよく分析し、そのよさを引き出せるような表現ができるようにする。楽曲の背景や作者の思いを踏まえ、強弱や緩急などの表現を研究し、演奏する。

現状分析
教科指導上の課題
○音に敏感であるが、感じたことや思ったことを豊かに表現できるようにするため、音楽に関するワードを例示し、表現しやすくする必要がある。
○コロナ禍を経て、小学校でも歌唱経験が少なく、歌唱に対する意識が低迷し、正しい発声法が身に付いていない生徒が多いため、模範演奏を披露したり、視聴覚教材で正しい発声法などを示す必要がある。
読譜の知識が不足しているため、楽譜に慣れるよう音楽記号や写譜の指導を行う必要がある。



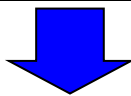
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○iPad に参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。 ○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。	◆表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。 ◆授業で写譜を扱い、楽譜に慣れる。細かな音楽記号の指導を行う。 ◆振り返りシートを活用する。
2年生	○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○iPad に参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。 ○一人1台の iPad を活用して、生徒の興味関心に合った個別の課題に取り組みせたり、ジグソー法等の問題解決型学習を取り入れたりするなど工夫する。	◆授業時間内に論理的な文章を書く課題を提示し、根拠をもとにした論理的な文章を書く力の向上を図る。 ◆振り返りシートを活用する。
3年生	○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○iPad に参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。 ○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を下級生に教える機会を作る。 ○話し合い活動を通して、情報を共有することで思考力、表現力の向上を図る。	◆授業時間内に論理的な文章を書く課題を提示し、根拠をもとにした論理的な文章を書く力の向上を図る。 ◆発展学習として、課題解決学習を取り入れ、分析能力を養う。 ◆振り返りシートを活用する。

(6) 美術科

【中学校】

美術科における指導の重点
・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や、美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

現状分析
教科指導上の課題
・デザイン構想に時間を多く使い過ぎてしまう生徒がいるため、見通しをもたせる声かけが必要である。(1年生) ・一斉指導での理解を促したり、技能の習得させたりするために、個別指導を丁寧に行っていく必要がある。(全学年)



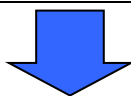
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○一斉指導後に個別の声かけを増やし、生徒同士でも教え合いやすい機会を設定する。 ○タブレットでの振り返りを活用し、いつでも課題を見つけたり、考えを記述したりできるようにする。また、他者のデザインを共有し合い、互いの発想や思考が可視化できるようにする。	◆デザイン構想の時間多くとれるよう、美術室内のホワイトボードに手順などを記載し、説明の時間を短くする。 ◆授業内での振り返りだけではなく、タブレットを生かしたICTの活用を促す。 ◆様々な表現触れ、表現の方法を知り、制作にいかせるように基礎的な知識・技能を学習する。
2年生	○遠近法などの知識を活用して表現できるように、タブレット端末を効果的に指導に取り入れる。 ○オンライン上で、自分の振り返りシートを作成し、自分の考えを表現できるようにする。また、他者のデザインを鑑賞し、発想や思考を伝え合う機会を設定する。	◆深い思考を促すため、多角的な視点で考える必要がある課題に取り組ませる。 ◆作品作りや鑑賞の授業において、他者と自分のとらえ方の違いに素直に気付かせるような視点を示す。 ◆授業内での振り返りだけではなく、タブレットを生かしたICTの活用を促す。
3年生	○デザイン構想中に、生徒自身が主題を深められるよう、他者作品を鑑賞し合う時間を設け、協働的な学びができるよう工夫する。 ○ICTを活用し生徒同士がいつでも作品を見られるようにして鑑賞会を実施する。 ○感想やアドバイスを共有し合い、互いの発想や思考が可視化できるようにする。	◆1、2年で学習した技法などを生かし、新たな作品作りに向けた個別の目標を設定させる。 ◆授業内での振り返りだけではなく、タブレットを生かしたICTの活用を促す。 ◆昼休みや放課後に作品制作の補充授業を実施する。

(7) 保健体育科

【中学校】

保健体育における指導の重点
○知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等が育成できるよう、動き方を互いに比較・分析、教え合える活動を重視する。 ○体力テストの結果を基に体力向上プログラムを作成し、基本的習慣や健康三原則の確立を先導していく。

現状分析
教科指導上の課題
1年生:運動に取り組む姿勢は良い。合理的に体を動かすための知識を身につけるための指導をする必要がある。 2年生:運動をしている人としていない人の差をやや感じる。運動に対しての価値付けと知識を身に付けてさせていく。 3年生:全体的に一生懸命に取り組むことができているが、意欲に差がある。今まで身に付けた知識を活用し、豊かなスポーツライフの実現に繋げていける指導をしていく。



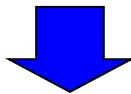
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○各単元の導入でオリエンテーションを行い、知識やねらいを把握させた上で、個別またはグループでの活動時間を設けていく。端末で動きを撮影させ、自身の動きや他者との比較、教え合いを行う。また、個々の技術を活かした簡易的な戦術・作戦を仲間と連携して表現できるよう指導する。	◆運動が得意な生徒が教えられる、苦手な生徒が失敗を恐れずに行える雰囲気作りを徹底する。また、苦手意識や恐怖心を取り除けるような段階的な練習方法を提示し、成功体験を増やし自信に変えていけるよう指導する。
2年生	○iPadで閲覧できるように、パワーポイントを活用して各単元の知識部分の導入を行う。練習方法とその効果などについて理解し、グループでの活動に繋げていく。 ○生徒同士でiPadを用いた動画撮影やスプレッドシートでの振り返り、教え合いなどのグループ活動を通して、課題や成果を見つける力を身に付けさせ、見方・考え方を働かせられるよう指導する。	◆内容の定着を図るために、基礎的な内容を繰り返し行い、段階的な指導とそこに教え合いなどの協働的な学び合いの時間を設定していく。運動や健康対しての価値付けから興味関心につながり、主体的に取り組めるよう、生活とのかかわりや他のスポーツとのかかわりを通して、豊かなスポーツライフについて考えていけるように指導する。
3年生	○iPadで閲覧できるように、パワーポイントを活用して各単元の知識部分の導入を行う。練習方法とその効果などの内容から、自分たちで練習を行うなどのグループでの活動に繋げていく。 ○生徒個人やグループ単位での課題や成果に応じた活動ができるように、生徒同士のiPadでの撮影や個人やグループでの振り返りをスプレッドシートを用いて行い、それに基づいてそれぞれが目的に応じた練習に取り組めるような授業を展開していく。	◆内容の定着を図るためには、知識の習得と繰り返し練習を行う事が必要とされる。粘り強くそれらに取り組むのためにも、毎時間を通して基礎練習の時間や教え合いなどの時間を設けていく。 ◆スポーツをすることが目的でなく、スポーツをすることでどのように豊かな生活に繋がっていくのかについて考えられるよう、高まる体力要素や関連するスポーツ、かかわり方などの視点から指導することで、生涯を通じた豊かなスポーツライフを実現させる資質能力を育めるよう指導する。

(8) 技術・家庭科

【中学校】

技術・家庭科における指導の重点
○生活や社会における問題を体験的な活動を通じて捉え、それを解決する方法を考えるような活動を重視する。
○知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等が育成できるよう、実習、レポートの作成等、自ら考え、表現する活動を重視する。

現状分析
教科指導上の課題
○様々な道具（調理器具や工具）を扱う技能を習得させるため、基礎的な指導から始める必要がある。
○生活や社会の中の知恵や技術を、知識としては知っているが、その細かな仕組みなどについては理解せずに利用している生徒が多く見受けられるため、考えを深めさせたり探究活動をする機会を増やしたりする必要がある。



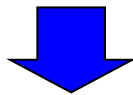
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<p>【技術】 個別で作業する場面、グループで作業する場面を明確にし、特にグループでの作業の際はメンバーにアドバイスする場面を多く設定し、教え合いながら作業を進めていくことが当たり前になるような雰囲気を作り出す。</p> <p>【家庭】 自分の生活の中に授業が置き換えられるよう、また見通しをもたせ、生徒自らが動ける、考えられるようにする。またグループ学習やサポート学習の中で、自分の考え等を広げたり深めたりする。</p>	<p>【技術】 様々な道具を扱う機会を増やす。はさみ、カッター、のこぎり、ドライバー、定規など、ものづくりで必要な道具の基本的な使い方を、説明するだけでなく、作業させながら定着させていく。</p> <p>【家庭】 家族や食の生活する上で必要な基本的な技術の経験や向上心や意欲をもてるように、体験の習得の工夫・向上心や意欲をもてるようにさせる。</p>
2年生	<p>【技術】 個人で作品作りを行う作業の中でも、他者にアドバイスをし合ったりすることができるよう、作業スペースの確保などを行う。個人の課題や振り返りはgoogle formsなどを使って細かく記録させる。</p> <p>【家庭】 布を使った作品を作ることで、自分の衣生活について、見通しを持たせる。個人作業が多い中、生徒同士の教え、完成の喜び・自分の技術を広げたり、深めたりする。</p>	<p>【技術】 練習課題と本番課題に分けて作品を制作させる。練習課題で失敗をさせ、それを振り返ることで本番課題に活かせるような作業の流れを作る。</p> <p>【家庭】 自分の生活に必要な物を作ることで生活の楽しさを理解できるようにする。自分で考え意欲的、能動的に学習し生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験の習得の工夫・向上心や意欲をもてるようにさせる</p>
3年生	<p>【技術】 グループで協力しながら1つの課題を解決する方法を考える授業を取り入れる。</p> <p>【家庭】 問題解決的に学ぶために、地域や自分の立場に結びつけて解決する方法をグループで考え、地域活動について深めていく。</p>	<p>【技術】 様々な道具や材料を複合的に使う作品作りを取り入れ、3年間で身に付けた技能の確認と定着を図る。</p> <p>【家庭】 三年間で見つけた事で生徒が自らが考えられるようにする。自ら進んで作品作りをして、周囲の人々との交流をする。社会の一員として自発的に、作業する態度を育成させる。</p>

(9) 外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点
○コミュニケーション能力の向上を目指し、ALTの活用やペアワークなどの活用を通して、話すことや聞くこと的能力向上を図る。 ○少人数指導や習熟度別指導による生徒の個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る。

現状分析
区学力調査の結果分析
○全体の達成率は67.2%と7割を下回った。領域別に見ると、「聞くこと」では、74.5%と他の領域に比べて高い達成率であった。「書くこと」では、64.1%と他の領域に比べて課題があることが分かる。(2年生)
○目標値を達成できている生徒が60%いるのに対し、正答率が30%を下回っている生徒が16%いる。基礎基本が定着していない生徒に向けて、学力の底上げを図る必要がある。(3年生)
教科指導上の課題
○自由に英作文を書く際に、文構造を意識して取り組むことができるよう、ドリル形式での英文を組み立てる練習をより多く授業に取り入れる必要がある(1年生)
○話す活動については積極的に取り組んでいるが、英文を作成するとなるとできない生徒が多い。 単語の力が不足していることが課題となっている。単語を覚える練習もする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○自分の考えや意見を英語で表現することを目的に、プレゼンテーションやスピーチの準備段階からペアワークやグループワークを授業内で積極的に取り入れ、生徒が互いの意見を取り入れたり、知識を教え合ったりして協働的な学びとなるよう努める。 ○Qubena を用いて生徒が自分で苦手とする文法事項や技能などを復習できるようワークブックの配布や自主学習の方法を指導する。	◆語彙の定着を図るために、各単元が終わったら単語テストを実施し、学習した単語を使った英文を作る活動を取り入れる。 ◆教科書本文を中心とした英文の音読を徹底し、リスニング能力や表現の定着を図る。
2年生	○一人1台端末を活用した1対1のプレゼンテーション活動を取り入れている。まずは個人で発表原稿及びスライドを作成する。個人練習が終わったら、ペアを組み互いの発表を聞き、フィードバックを行う。その後クラス全体で発表を行うこともある。生徒同士でフィードバックを行うことにより、生徒の主体性や見せる意識が向上していると感じる。少人数指導の特徴をいかした協働的な学びを実現できるよう努める。	◆単元ごとにまとめの授業を行い、文法及び教科書内容の復習を行う。 ◆毎時間の帯活動で単語の復習を行う。
3年生	○帯活動で語彙力の定着のために Quizlet を用いて生徒一人ひとりの進度に合わせた学習をこれからも続けていく。 ○自分の考えや気持ちを英語で相手に伝えられるように、簡単なQ&Aからチャットまで、ペアやグループで話し合う時間を確保し、表現力の向上を目指して指導を行っていく。	◆単元ごとに単元テストを行い、今までの学習を振り返る場面をつくる。 ◆新出単元に移る場合は既習単元との関わりを考えさせ、学習のつながりを意識させる。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

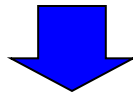
道徳科における指導の重点

- 下記の重点項目について、3年間を通して系統的に学びでいく。
- 生命を大切に、他者を思いやる心を育てる。
 - 公正さを重んじ、他者とともに生きようとする心を育てる。
 - それぞれの個を生かしてよりよい集団や社会を形成しようとする心を育てる。

現状分析

教科指導上の課題

○どの生徒も自分の意見を発表できるように、意見を言いやすい雰囲気作りをし、生徒の様々な考えを受け止める授業を展開する必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- 学年行事や学校行事等の体験活動を関連させ、生徒自身の生活の中で生かせるようにする。
- 心に響く資料の選択及び活用、資料提示の工夫をし、生徒自身が主体的に自ら考え行動できるようにする。
- 電子黒板を使用し、参考資料などを提示し、教材についての理解を深められるようにする。
- タブレット端末を使用し、互いの意見が可視化できるようにする。
- ゲストティーチャー、ティームティーチング等の指導方法を工夫し、生徒と教師がともに考えていく機会をつくる。
- 実際の事例や身近な話題、題材を工夫し、生徒自身とのつながりを意識できるようにする。